

# ひまわりからの メッセージ

163号

2025.7.14.

NPO ひまわりの花内  
西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

## 山の朝陽



毎日暑い日が続いています。この暑さで蝉が死んでしまうというようなことも聞こえてきました。その暑さを吹き飛ばすかのように、NHKのBSで冬山が放映されていました。『グレートヒマラヤトレイル』という番組でマナスルの朝陽を写そうという試みでした。

マナスルをめざす登山家は中島健郎。昨年の夏、パキスタンのK2で亡くなった健郎の生前の姿が映し出されていました。まだ三十代。いたづらっ子の様など、憎めない表情の彼をはじめ、テレビで見たのは、いつだったか忘れてしまいました。仲間と共にヒマラヤの山々に挑む姿にいつしかファンになっていた私でした。

昔、「娘さん、よく聞けよ。山男にや惚れるなよ……」という歌がありました。テレビ画面に映る山の美し

さを、実際に目にしたり、とりこになり、又行くなくなるに達しない。山男の心情を思いやったものでした。

七月十二日(土)の映像では、マナスルの頂から夜が明け始めて真白の雪が次第にオレンジに変わっていき、やがて山全体が朝日に包まれていく情景を映し出していました。刻一刻と変わっていく壮麗な雪山の風景を、息をのんで見つめていましたが、日本でも富士山に多くの人が訪れて朝日を拝むといえます。遠い昔からエジプトでもインカでも太陽を神として崇めるのは私たち人間にとては当然のことなのかもしれません。

雪山の映像を見ながら、ふっと自分の小ささに思いを馳せました。人はおこり、たかぶり、自分のことしか考えられなくなつて、世界では戦争がつづき、人は飢え、子どもたちが犠牲になつていきます。若い頃は私にはまだまだ出来ることがあるはずだと信じて、突っ走ってききましたが、近頃は無力だなあと、思うことが増えた気がしています。

私が出すこの「ひまわりからのメッセージ」は岐阜県障害福祉課の委託事業の一環として書いていますが、それを良く思わない人もまたいらっしゃるに違いありません。マナスルの光景を見ながら、遠い昔、スイスでマッターホルンの朝陽をながめた日のことを思い出し、高齢の今だからこそ自分の立場でなすべきことをやっつけていかなくてはと思いを新たにしました。

## 学び方の違う子へのサポート

### 定着の難しさい



特別支援教育士資格認定協会の機関誌「LD ADHD & ASD」の今年の七月号は S・E・N・S 年次大会(岩手)の特集でした。S・E・N・S というのは Special Educational Needs Specialist の略で特別支援教育士のことを言います。この資格は LD 学会の連携資格で民間資格ではあるのですが、多くの教員の方が取得されています。その全国大会の特集が M・I・M でした。えっ今さら? というのが、私の驚きでした。

もう一つ最近驚いたのは、感覚プロフィールです。西濃園域だけでなく他地域でもこの研修は進んできたはずでしたが、ある所で「こんなものもあります」と紹介されたのです。これも、今ですか? と思いました。

確かに、視機能に関することは、この数年間にずい分と広がっていますから視機能検査の MANES は通級の先生たちが実際にやって下さることがふえました。しかし、読み書きに関して M・I・M は広がっていないのだと思います。「ひまわりかうのメッセージ」に書いたことがあるので「西美濃ホ

ータルサイト」で調べてみましたら、ちょうど六年前の七月八日発行の九十七号に書いていました。読み書きの困りがある子を早期に見つけて低学年のうちに対応してあげると良いのに……と思います。S・E・N・S 資格をもつ先生方もたくさんいらっしゃると思うのですが、今どの位広がっているのでしょうか。

昔は幼稚園教育の中で遊びとして音韻の学びをしていましたが、今の子どもたちは、幼児期に一つ一つの文字を覚えさせられているように思います。九歳までに適切な教育が受けられなかった場合には、その内の七〇パーセントが読みのつまづきを生涯もちづづけるとも言われているようですから早期支援が望まれますよね。

LD のお子さんは低学年から特殊音節につまづくことが多いと考えられています。特殊音節は他の仮名文字のように文字と音が一対一対応していませんから難しいですね。小さい「つ」のつく音や、「や」「ゆ」「よ」のつく拗音、  
「おかあさん」など音を伸ばす長母音など見えない音を視覚化、動作化していくことで、ただ音だけで学ぶより音を目で確かめ、体で表現することで、体でおぼえていくことができるのだらうと思います。

視覚化というのは、シールを使って、例えば「ねこ」は●●

「ねっこ」は●●●、「おばさん」は●●●●●ですが「おばあさん」は●●●●●と表します。動作化の方は、普通の音は手をたたきますが、促音といわれる、小さい「っ」は「っ」の形で握ります。「おばあさん」の時は「お・ば」と叩いた手をそのまま下に下ろし「ヤ・ん」と叩いていくわけです。拗音は二つの文字でできていますから手を組み合わせせた形を作るのですが、視覚化は◎となります。

MIM-PPMというアセスメントツールを使って、まず一年生全員に実施した後、その時に獲得できなかった子を、隙間時間を使って重点的に指導していきます。ステージは三段階になっていて、その見に合わせて指導がなされていきます。最近LDの子どもたちが増えているようにも感じますので、各学校でMIMの導入を考えていたのだという思いがあります。興味のある方は是非ご一報下さい。貸し出しも可能ですが学校によっては、確かあったけれど使っていないなあという所もあるかもしれません。どうやって使うのだろうと思ってしまう所もあるかもしれません。

S・E・N・Sの岩手大会の記事も参考になると思いますが、一読してみても下さると良いでしょう。読みがスムーズになることによって板書写しがいやくなる子もいるでしょうし、何より子どもたちが勉強がういにならなくくれるといいですね。

## 子どもの感覚処理能力 感覚プロフィール

感覚プロフィールというのは、0～3歳までの乳幼児感覚プロフィールと三～十歳までのものがあります。

子どもたちの行動についていくつかのチェック項目があり、保護者にもチェックしてもらうことができます。もちろん、保育者や教員にも、チェックできるのでありますが、それらは日常生活の中の子どもの行動のチェックです。質問票の記入は三十分、スコアシートの作成に三十分位かかります。

最近、私たちは子どもたちの感覚の問題にも目を向けるようになってきました。感覚統合という考え方もありますが、ここでは、感覚処理として、聴覚、視覚、前庭覚、触覚、複合感覚、口腔感覚を調べます。そして、それらの感覚の調整機能、行動や情動反応などを通して具体的に支援のアプローチを考えていこうとするものです。

感覚処理理論モデルを利用した分析では、モデル区分を低登録、感覚過敏、感覚探求、感覚回避、低関値などに分けて考えています。

低登録の子は、強い刺激に対する反応が低いので無関心に見える。活動に活気がない、体力レベルが低く、疲れているようにふるまい、動作の持続が苦手ということがあ

そこで興味のある活動への特徴づけをし、例えばテーブルの上をコントラストの強い色にして食べ物に気づきやすくするか、朝の手順を変えて何が起こっているのか気づかせるようにするなどの方法を考えます。

感覚探求の子は強い刺激に対する反応が高いので、活動的で常に何かのかかわりをもとうとして動きながら音を立てたり、物をいじったり、人にまわりついたりする。興奮しやすいように見える。そこで日常生活の中では好きな感覚を強化し、椅子を揺らす子には前庭刺激を入れていくなど、観察を通してどの感覚が必要かを見極めていく必要性があります。

感覚過敏の子は弱い刺激に対する反応が高いので、注意散漫で多動、新しい刺激に注意を向けるので目的行動からそれてしまったり、やっていることを見失ってしまったり、そして自分がやっていることを邪魔されると怒ってしまうこともあります。私たちは、まず注意散漫な行動を理解し、子どもから刺激をとり除いて自分と環境との識別に気づけるようにしていくことになるでしょう。

感覚回避の子は、不快や恐怖などから逃れるために破壊的な行動に走ることもあり、ひきこもってしまうこともある。日常生活がパターン化し、変化を好まない。なじみのない感覚

覚入力を制限しても良いと認め、子どもが受容できる儀式的なパターンの範囲内で感覚処理の経験をふやしていきます。これらは一例ですが、子どもがどの様な感覚なのかを知ることによって支援は変わってくるはずで、私たちにとりて大切なのは目の前の子どもを観察し、子どもの行動や反応の理由を知ることです。なぜ、こんなことをするのだろう、どうしてこういう行動をとるのだろうと、思っていたことがもしかしたら、こんな感覚の問題で苦しんでいたのか、もしれないなあと、別の視点で考えられるかもしれません。低閾値の子というのは、感覚過敏と感覚回避の両方がある子で、障がいのある子に多いといえます。日や時間によって、うつきがあり、落ちつきなく怒りっぽく行動をやめってしまうこともあるので、何が引き金になるのか、行動やふるまいの中のパターンを見つけ、いくことが必要だと考えられています。子どもを観る一つの視点として知っておくと良いのではないのでしょうか。

## < 8月の予定 >

8/6 ヒアサポート

※ 親の会はありません！

8月は教育相談や研修会などがたくさん予定されています。暑さはこれからがピークでしょう。お互い熱中症に気を付けてこの暑さを乗り越えましょうね。

